

青年国際交流事業 事後活動推進全国代表者会議
日本青年国際交流機構 第80回全国推進会議
一般財団法人 青少年国際交流推進センター推進委員会議
議事録

日 時：令和4年10月1日（土）9:30-17:30

会 場：オンライン開催 Zoom

司会：池田（事務局次長）

議事録：佐藤（中国B幹事） 田島（船担当国際幹事） 池田（事務局次長）

◆資料説明 資料格納先「IYEOよろずWeb」<https://sites.google.com/iyeo.or.jp/iyeo/>

内 容：

I. 開会挨拶

1 内閣府 青年国際交流担当：田中駒子参事官

内閣府の国際交流事業においてはIYEO役員の皆様、各都道府県会長はじめ地域の事後活動組織の皆様にご多大なご協力とご支援をいただき感謝申し上げます。依然として新型コロナウイルス感染症の制約もあるが、今年度はハイブリット型のブロックイベント開催にチャレンジしていただく地域もあり創意工夫して事後活動に取り組んでいただいている。また青少年国際交流推進センターにおかれましては内閣府事業の運営に尽力されるとともに、自主事業も頑張っていると承知している。

今年度の内閣府青年国際交流事業については、新型コロナウイルス感染症の制約があるなかでも、事業の大事な要素である対面事業をできる限り再開したいと考え、一部事業では対面を取り入れたハイブリッドの事業を予定している。先日、世界青年の船(ハイブリッド)の日本参加青年の事前研修を3年ぶりに対面で実施した。開会式に参加し、参加青年に実際にお会いして、青年たちの熱気に直に触れ、いよいよ対面の事業が動き出すと実感した。動き出せるところは可能な限りリアルでの対面を実施していきたい。

令和5年度事業の方向性については7月に取りまとめられた有識者検討会議の報告を踏まえ、これまでの伝統を継承しつつ、令和の新事業として一部大きくプログラムを変更して実施する予定。新しい試みになるが皆さんと連携を取り、充実した事業にしていきたいと思う。

2 日本青年国際交流機構：長末会長

田中参事官もおっしゃったように、世界船の対面事業がいよいよ始まり、ワクワクしている。明日は北信越のブロックイベントもあり、いろいろなことが動き始めていると実感している。今日の議題にもあるように、IYEOは変革の中にいると思う。前に進んでいっているなど感じている。今日一日楽しみながら過ごしていけたらと思う。

3 一般財団法人 青少年国際交流推進センター：駒形理事長

いよいよ内閣府の交流事業が今年度も始まるが、対面交流も復活ということで地方プログラムも再開する。IYEOの皆さんもワクワクしているのでは。推進センターとしても対面で交流するのは久しぶりなのでしっかり準備してIYEOの皆さんと連携して対応していきたい。

推進センターでは今年度からブロック会議等に対する補助金の交付要領を改定し、ブロックイベントへの支援策を充実させている。事後活動においてもIYEOと密に連携していきたい。

会議の資料の名簿を見ると、最近事業に参加した若手の方が運営の一翼を担うなど大変頼もしく思っている。長年頑張っている方にも敬意を表す。

推進センターもコロナ禍でどうあるべきか研修を行い、ビジョン・ミッション・バリューについて議論し、ロゴを新しく作った。推進センターもIYEOの皆さんとともに頑張っていきたい。次回代表者会議では対面でお会いできるのを楽しみにしている。

II. 内閣府青年国際交流事業について：内閣府 梅田参事官補佐、福田主査付

①令和4年度 内閣府青年国際交流事業について：梅田参事官補佐

1. 令和4年度事業の実施について

今年度はオンラインから対面の事業を一部取り入れ、育成事業と世界青年の船について一部対面を取り入れたハイブリッドで実施。日中、日韓、東南アジア青年の船は各国と調整してオンラインで実施。

育成事業では、欧州地域はITの活用をテーマ、中南米は災害対策をテーマに交流を予定。11月にオンライン、12月に成田で対面実施後、地方プログラムを経て中央プログラム実施。今月オンラインで事前研修を行う予定。2月にオンラインで事業報告会を予定。

日中は今月末にオンライン交流を1日実施、明日事前研修、翌週にも事前研修を予定。オンラインの事業報告は日中日韓合同で2月に実施。

日韓は11月に3日間実施。

東南アジア青年の船は11月から12月に計6日間オンラインで実施。

世界青年の船は10か国を対象に日本人60名程度、外国青年各国8名計80名の参加を予定。

対面の事前研修を9月にオリンピックセンターで実施。久しぶりの対面事業で不慣れだがIYE0の皆様力を借りてしっかり充実したものにしていきたい。11月にはオンラインでの交流、12月には「oVice」という仮想空間を使って参加青年が自由な交流を図る期間を設けている。対面交流は2月に実施予定。

新型コロナウイルス感染症対策もしっかり行っていかなければいけないが、水際対策も緩和されてきている。日本青年対象に9月に行った事前研修でも体調不良者は出ず実施できた。今後もいい形で実施できればと考えている。

2. 令和4年度地方プログラムについて

国際青年育成事業、東南アジア青年の船、世界青年の船3つの事業で地方プログラムを実施。育成、世界船は現地に訪れて実施、東ア船はオンラインで実施。地方プログラム受け入れ先は一緒に事業を成功に導いてくれるパートナーとして心強く思っている。

3. 令和4年度推進大会、ブロックイベント及び関係者連絡会議について

現在3か所終了しているが、連絡会議もテーマ性を持って地方公共団体とIYE0の連携を図る場になることを期待して意見交換を今年から新たに行っている。初めての試みということもあり、反省点もあるが、単なる報告の場でなく、連携の機会に役立てるよう残りのブロックも工夫しながら進めていきたい。

② 令和4年度日本参加青年の募集・選考の結果及び今後の広報活動について：福田主査付

1. 今年度の青年国際交流事業の応募者

応募者総数は、5事業合わせて、一次募集で177名、二次募集で68名の応募があった。倍率としては、合計平均1.5倍の結果となった。

2. 応募者および合格者の出身地

応募者を出身地別にみると（※出身地は住民票による）都市圏からの応募が多いが、人口比率を考慮すると全国各地からの応募も増えている。

昨年度に引き続きオンラインで選考を実施したことにより、地方毎の偏りは是正できているのではないかと感じている。オンラインのメリットを感じられる。合格者については全国各地から満遍なく選出できた。

3. 広報活動についての応募者からのアンケート結果

一次募集では「既参加青年の紹介」が一番多かったが、二次募集では「所属先の広報媒体を見て」が多い結果となった。大学への広報協力、ポスター掲示依頼などの結果かもしれない。

「公式SNSを見て」という選択肢は3%だったものが、一次募集終了後、SNSを毎日更新することによって9%までに増加した。

4. 令和4年度の広報活動実績（ポスター・ビラ）

全国都道府県政令都市、青少年団体、大学等に送付した。

5. 今後の広報活動実績

Twitterのフォロワー数目標を350名としており、今年9月26日時点で425となり目標を達成することができた。来年度の募集の際には500名のフォロワーを目指す。

Instagramアカウントを2月に開設し、募集開始に合わせて投稿を行ってきた。フォロワー数は99名と少な目ではあるが、来年度に向け有料広告も検討しながら情報を発信していきたい。令和3年度参加青年有志にインタビューをお願いして映像をSNSに投稿した。

今後については、インスタ開設により主要SNSツールは網羅したと思うが、事業申し込み状況とSNSフォロワー数が少なかったことから、地道にフォロワーを獲得できるように頑張っていきたい。今年度事業も始まり、様子を事業担当と相談して投稿していけたらと考えている。有料広告をたてることも検討している。

来年度Twitterフォロワー500名、Instagramフォロワー200名を目標。

③令和5年度内閣府青年国際交流事業の方向性について：梅田補佐

8月24日に来年度事業説明会を行い、重複する内容になるが、ご確認いただきたい。

有識者懇談会を行い、今後の内閣府事業をどのように充実させるか議論いただいた中で、募集段階で意欲の高い青年を募り、事業実施段階で効果的なプログラムを行うこと、事後活動段階としてグローバルネットワークを生かした活発な事後活動を展開することが位置づけられた。

それぞれの段階に応じた事業強化の視点を持って、事業の充実を図っていきたい。

一番の目標である次世代グローバルリーダーの育成について、時代の変化を捉えながら事業実施を通して育てていきたい。

これを踏まえ、具体的に令和5年度の青年国際交流事業の方向性を大きく5つ示している。

1つ目、5つの事業(育成、日中、日韓、世界船、東ア船)の骨格を維持して実施予定として8月末に令和5年度概算要求をしている。事業総額としては今年度13.3億円から来年度13.7億円と増額で財務省と折衝している。

今年度はオンライン・ハイブリッド事業として展開しているが、来年度は本格的に対面の事業を再開していきたい。一方でこの2、3年で培ったオンラインの良さも組み合わせながら事業を実施していきたい。

また全体の事業を横断して報告会を行うことで事業間のつながりを作るような働きかけができないか考えている。

先日の事前研修で参加青年から話を聞いた際に、若者のFacebookのユーザーが少なくなっているなどといった話を聞き、時代の変化を感じた。状況の変化に応じてどのような発信を行っていくか、手法やコンテンツを考えて戦略的な発信をしていきたい。実際に若い世代にどうすればリーチできるか、IYEOの発想も取り入れながら強化していきたい。

2つ目、選考について、多様性重視枠ということで一芸に秀でた人を選べる枠を設定することを考えている。

3つ目、事後活動充実に向けた取り組みとして、事後活動の調査、把握なども内閣府としてどのようなサポートができるか相談したい。Dashboardの財政面を含めどのような支援ができるか相談しながら事後活動の充実に取り組んでいきたい。

4つ目、来年が日ASEAN友好協力50周年記念の年になり、事業の検討を今後進めていく。来年度東ア船事業がどのような形で実施できるかにも関わってくるが、海外既参加青年とIYEOの皆さんを招聘してレセプションを実施できないか考えている。

5つ目、世界青年の船の新プログラムの実施は一つの大きな変革になるが、IYEOの皆さんに

もご協力をいただきたい。事業説明会を経て、現在5地域で受入の検討を進めていただいている。来年度以降どのような形で実施できるか検討していきたい。

来年1月から世界船以外の事業についても受け入れ希望調査を進めていきたい。

参加者募集についてはここ数年事業の実施形態が決まらず年度が変わってから募集が始まり大変な状況もあったが、できるだけ年度内に募集できるようにしたい。新型コロナウイルス感染症水際対策も進み、令和5年度から本格的に対面事業の再開を目指して引き続きご協力をお願いしたい。

【質問】横倉広報担当幹事

令和5年度の選考はまた内閣府のみでしょうか。

【回答】梅田参事官補佐

現時点では決まっていない。内閣府が一括でオンラインにて実施することによって、地域の偏在の解消が可能になるなど、オンラインのメリットも感じている。都道府県と募集選考の段階からどのような形で連携をできるのかこれから考えていきたいと思っている。

Ⅲ. 日本青年国際交流機構の活動について

① 令和3年度8月末迄の報告及び9月以降の活動予定について

この後のIYE0議案に含まれるため、この場では割愛。

Ⅳ. 一般財団法人 青少年国際交流推進センター事業報告及び計画等

：本田推進センター事務局長

上半期は従来、職員の技能を高めつつ事業実施の準備期間にあてている。

コロナ禍で雇用調整助成金を活用しながら休業の調整や教育訓練をしてきた。

センター職員の技能向上を図るため、チームビルディングの合宿をオリンピックセンターで実施。プロトコル講座、救急講習など行い万全の体制を整えて今年度事業に備えてきた。

ロゴやビジョンの説明などは令和5年度に対外的に発信していきたい。

① 内閣府からの令和4年度青年国際交流事業関連の契約

育成、日中、日韓、東ア船、世界船、5事業の契約を受注し、支援業務が始まっている。加えて事後活動充実強化の支援業務としてIYE0活動のサポートを進めている。小規模なものとして「東南アジア青年の船」事業の各国連絡会議、今年度参加青年の選考における支援業務、翻訳サポートなどを行っている。

IYE0会員の名簿管理なども内閣府と連携してできないか協議している。

② 独自主催事業について

昨年に引き続き、イスラーム関係のセミナーを進めている。現地参加のプログラムを実施するなど正しい理解につながるよう取り組んでいる。

国際理解教育支援プログラムについても3件が既に予定されている。

③活動奨励金交付要領並びにブロック会議等に対する補助金

令和3年度の実績としては20道府県の団体会員に対して47件の活動奨励金を交付した。(令和2年度は22道府県・45件、総額は増加)

オンラインのみならず対面交流事業を実施できるようになってきたため、以前と同様に積極的に利用してほしい。

ブロック会議等に対する補助金の交付要領を改定。今年度ブロックイベントなど、2部制となり、センターの共同主催として助成をするようにしたので併せて活用してもらいたい。

今まで「ボランティア保険」を紹介していたが、謝金支給対象者はボランティア保険に入れなくなったために実行委員は対象外。代替として「国内旅行保険」を紹介。1名1日につき265円かかり、実施する1週間前までに手続きが必要となるため、申請のタイミングを気を付けてもらいたい。今年度事業については、東ア船の地方プログラムにおける地方の参加青年がボランティア保険の対象となり、それ以外は対象外となる。

④「青年国際交流事業と事業参加者の事後活動（年報）」、マクロコズムについて説明なし。

【IYEO議案】

定足数確認：幹事会構成員28名及び都道府県IYEO代表者47名の計75名
定足数過半数38名、本日出席者57名、委任状12名→成立。

議長選出：幹事会構成員 都道府県樋口幹事
都道府県代表 千葉県井上会長
議事録署名人：北海道・東北ブロック高橋幹事、熊本県浜元会長
→拍手承認。

議事提案(はじめに)：

令和4年度の幹事会は6回、全国推進会議はIYEO主催を2回、内閣府、推進センター、IYEOの三者同時開催を2回、計4回を予定している。これまでに4回の幹事会と1回の推進会議を開催してきた。幹事会では、戦略、事務局、社会貢献、財政、事業に分けて役割ごとにチームを編成し活動をしている。

前回の全国推進会議において、各自のチームの活動状況報告の他、各チームの提案を行った。議決事項については「IYEO全国推進会議の議事録の公開、使用について」事務局より提案し、可決され、これにより第79回推進会議からIYEOのホームページにて公開されることとなった。幹事会員の意思疎通、情報共有をスムーズにする狙いがある。

9月10日に開催された幹事会においては「IYEO公式情報ガイドラインの整備をしていく方向性について」「幹事会議事録の公開について」を取り上げ可決された。IYEO公式情報ガイドライン整備については本日の議事でも取り上げる。SNSを始めとしたオンラインツールの活用が進むなか、IYEOでも信頼のおける情報発信の整備を進めたい。

【1】戦略担当

① 年間計画進捗共有：本田副会長

昨年度の全国推進会議で設けた、令和4年度の活動計画について説明。

「持続可能な運営体制の構築」をミッションとして、新規会員に対するキャリアデザインセミナーを実行している。実績として14名がこれまで4回のセミナーに参加した。IYEOラーニングプログラムを10月6日に実施予定。

-規約・制度の最適化について、議事録の公開について今年度の全国推進会議と幹事会で検討し進めている。公式情報ガイドライン、規約改正を想定して検討。

-キャリアデザインセミナーは、4回のセミナーを終え、実際の活動につなげていくフェーズに突入。活動の初歩的な入口を探している会員を適切につなげていくことを始めている。若手に選ばれる組織としてオンボーディングプロセスを展開。新しいメンバーの定着をIYEO全体で取り組んでいく必要がある。

-団体連携、自民党青年局の訪問やIYEOとして自治体との連携、IYEOの活動の在り方について社会貢献軸と連携して進めている。

東京都日中友好協会青年部にも訪問いただいた。

令和5年度新事業（世界船の変更）準備に向け、関心を寄せている4県IYEOの担当と意見交換をした。

団体連携については今年度情報収集をして来年度実行していきたい。

-実行委員調査、各ブロックイベント、全国大会にて実行委員になった人のフォローアップ調査の実施について、IYEO活動がその後、どのように影響を与えたかインタビュー方式で聞き取るHUMANO原稿が代替となりそうなため、数値データ集積は再検討とする。

下半期は上半期の検証を踏まえ、定例ミーティングですり合わせを行いながら実行していきたい。

② IYEOキャリアデザインセミナー：長谷川戦略担当幹事

セミナーの特徴、直近の参加青年を対象に、事後活動研修費を利用したセミナーとなっている。参加者14名個々に伴走しながら自分のキャリアを見直したり、自分を知ったりするところから実施。（下サイト参照。）

<https://sites.google.com/iyeo.or.jp/iyeo-carrier-design-seminar/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0>

参加者に寄り添い、IYEOはどういう活動ができるか、どんな人がいるかわからない方たちが活躍できる第一歩にしたい。

③IYEO Learning Program：樋口都道府県担当幹事

一昨年から実施。もとは役員研修から派生し、運営やスキルアップに生かせるプログラム。

10月6日 第3回「チャレンジしてこそその人生～言い訳せずに挑戦しよう～」

DariK株式会社代表取締役/株式会社ロッテ執行役員 吉野慶一氏(2001, 2009SSEAYP)

IYEO Learning NEO：運営委員主体で3回実施予定。

11月25日 日本茶を知ろう！という企画を準備しつつある。

1月、3月にもそれぞれ、テーマに沿った話題について会員同士が対話をし、今後のつながりを育む学びの場になるプログラムを開催予定。

④活動組織と会員のマッチング支援：大野事務局次長

「活動組織と会員のマッチングの仕組みがない、どう関わっていいかわからない」、「その結果、組織運営困難に陥り活動も生まない」という多くの会員の課題意識を解消させるために生まれた。活動組織と会員のマッチング支援の在り方として、「活動組織の情報を会員が目にして、活動組織へ問合せがくる」「活動組織が会員プロフィールを見て、この人に連絡してみよう」の双方向2通りがありうると思うが、今回は前者のマッチング支援の仕組みとそれに含まれるIYEOへの人材募集の問合せフォームを作成した。これらは複数の既存のサービスを組み合わせることで実現。活動組織情報の発信は既存のSNSを集約。さらに前活動組織に配布済みのスプレッドシートのrecruitのタブのシートに人材募集情報を入力すると、前活動組織の人材公募情報一覧が掲載される仕組みも用意した。さらに情報を見た会員が気軽に活動組織へ問合せできるよう問い合わせフォームを作成した。これらをひとつのサイトで実行できるポータルサイトIYEO Career Catalogueを構築した。

<https://sites.google.com/iyeo.or.jp/career>

【質問】：本田副会長

情報が整ってから運用を開始したほうがいいと思うが、開始時期の目安はいつを想定しているかを伝えてはどうか。

【回答】：大野事務局次長

求人情報が発生すれば投稿してもらいたいと思うが、2週間をめぐり10月15日までに記入していただきたい。

樋口幹事より：各組織もSNSの更新努力を。

【意見】：梅田参事官補佐

ここまで進めていただき感謝申し上げます。プラットフォームとしてかなり完成しているので、内閣府として協力できることがあればお知らせいただきたい。

【回答】：大野事務局次長

性能改善をするためにWebサービス利用料の支援をいただきたい。月額1万程度かと思う。

梅田補佐：それは保守運営費か。

大野：具体的に言うとGoogleプラットフォーム利用料。

梅田補佐：具体的には後日相談したい。

【補足】：大野事務局次長

伝え忘れたが、IYEO Career Catalogueに集まってきたオープンポジションの情報は月1回程度の会員一斉通知でも配信し、全国的な活動組織と会員のマッチングを加速していくことを考えている。

⑤オンボーディング（参加者へのIYEO紹介、名簿）：長谷川戦略担当幹事

オンボーディングとは：乗り物に乗っていることを意味する「on-board」を由来とし、新しい仲間の順応を促進する取り組みを指す言葉である。人事用語では、新しく会社・組織に加わった人材にいち早く職場に慣れてもらうことで、組織への定着・戦力化を促進するための取り組みのことを指す。新しい仲間を作っていくという意味で使用。

事務局から今年度事業参加者向けにメールを配信した。内容は大きくIYEOの組織と事後活動についての説明と、会員登録、直近のイベントについて紹介。お住まいの都道府県から連絡させていただく場合がある旨も記載。

次に事業の事前事後研修について、事後活動の説明を事業担当・社会貢献担当と連携して実施。未来創造会議2021、2022メンバーも協力。

9月にはSWY事前研修に参加。梅田補佐も出席され事後活動について説明された後、IYEOの概要説明、7名の参加者がピッチトークで事後活動について説明した。紹介後には参加青年とのグループワークを実施。（詳細はHPにも記載。）今後も他事業においても同様に活動していく予定。

アンケートによるとモチベーションにつながった、などのポジティブな意見があった反面、活動が多すぎて何の話か分からなかった、といった意見もあった。

・名簿の共有について：長谷川戦略担当幹事、樋口都道府県担当幹事

事務局より今年度事業参加者134名について該当の29都道府県に名簿を共有。

ぜひ事業がスタートする前に直接参加青年に声かけしてもらいたい。10月中に、声掛けアプローチをしたのかグーグルフォームアンケートを行いたい。都道府県チームとして各都道府県のフォローの仕方を考えていきたいと思っている。

・入会率の変遷：本田副会長

2016年までは事前研修前にIYEOの入会金を支払っていたためほぼ100%が入会。2017年から事前研修でIYEOの紹介ができなくなり、入会率が減。2020年にはコロナ禍でオンライン事業になり、応募窓口が業者になり5%台に。2021年には正会員の金額を2万円に変更。（14%台）

2022年は現時点で1名のみ。IYE0に入ってくる人がかなり減っている現状。IYE0全体でこの課題について考え対応するというのがオンボーディングプロセスの本質的なねらいである。1年目の導入期に、IYE0としてどんなアクションをしていくかが重要だと考えている。各チームの動きと関連して、事務局では通年で入会案内を進めていく。2年目以降は参加だけでなく運営側に関わることで活動母体の運営強化につながっていくと考える。定着期には役員として私たちの仲間に加わってもらうことを想定している。

【意見】：工藤事務局長

参加者アンケートでは、ネガティブ（課題）な部分も、ポジティブな部分も声がただけて、参考になった。

【お願い】：國分静岡県会長

先ほど長谷川戦略幹事から説明があったが、今年度事業参加する青年に事務局から送信されたIYE0に関する紹介メールを全国都道府県会長に送ってもらえるか。青年たちにコンタクトする際、参考にしたい。

【回答】：長谷川戦略担当幹事

共有できるよう準備する。

【コメント】：愛媛県芝会長

愛媛県参加者よりメールがあったので紹介する。

東京でのSWY事前研修では、素晴らしい志を持つ仲間たちと出会い、刺激を与え合い、新たな目標を持って先日、愛媛県に帰郷した。また、県での壮行会を開催予定。

【要望】：近畿ブロック亀谷幹事

オンボーディングに関連して、内閣府への事業参加後のIYE0入会もあると思うが、他団体、地域のIYE0活動に賛同いただける方の、IYE0入会の推進もあると思う。今までの話で、入会率が下がっているということなので、活動に賛同協力いただけるのであれば、青年層はもちろん、時間を有しているリタイアした方にも呼びかけしてもいいのかと思う。

【回答】：梅田参事官補佐

ご意見として承った。

【感想】：池田事務局次長

島根県から昨年度参加した青年2名が未来創造会議2022メンバーとして活動し、今年度は東ア船の受入に実行委員として協力してくれている。

オンラインでコミュニケーションの難しさはあるが事業参加前後から積極的にコミュニケーション取っていくことと直近に活動の受け皿があることが新入会員をつなぎとめるのに大切かと思う。

【感想】：山梨県平原副会長

コロナ禍で事後活動が対面実施困難となった2019年度会員、その後オンライン事業化された2020～2021年度会員には、特に現在のIYE0の多様な活動を再周知できるとよいと思った。

【報告】宮崎県荒武会長

昨年度、国際社会青年事業に宮崎から参加された方には、壮行会はできなかったが、役員からメッセージをメールで送った。参加された中山さんは熱心な方で、お忙しいお仕事の合間を縫って、ご都合がつくときは事業に参加してくれる。令和4年度の募集の際は従来の大学、市民活動センターにチラシを置く、報告会、事業説明会を開催したほか、宮崎日日新聞の投稿欄に宮崎県IYE0のアピールなどもしたが残念ながら応募者はいなかった。

【2】事務局

①年間計画進捗共有：工藤事務局長

事務局のミッションとして「IYEOに入って良かった」と思われる団体に、を掲げ、新入会員の活動定着、IYEO役員運営の負担軽減、名簿メールアドレスの登録率向上、IYEOアクティブ会員率の向上を4つのゴールとしている。

予定通り進捗：よろずWebの整備、Dashboard、事務局作業の効率化・DXなどに取り組んでいる。

未着手：パルスサーベイ、コミュニケーションプラットフォームの整備、外部団体とのコラボ（コモンビート、松下政経塾など）活動紹介を行うことがあったが、今後は引き続きより深く連携できればと思う。

会員にIYEOの活動内容の理解を深めてもらう、活発な議論が生まれやすい会議の運営などを引き続き進めていきたい。

③ Dashboardの活用とGoogle Sheets記入について：工藤事務局長

活動情報可視化のために必要。内閣府の事業費の概算要求と事業存続の際の材料となるため重要。

(Google Sheets 記入の流れについて説明：洲崎事務局員)

注意点：在籍都道府県の会員登録情報が閲覧可能になるので、都道府県会長には個人情報取り扱いについて確認し署名いただいている。会長交代の引き継ぎの際に一言お伝えいただきたい。特に都道府県のグループアドレスでパスワードを役員間で共有している場合には、個人情報の取り扱いに注意する、またはパスワードの変更の検討などをお願いしたい。

各都道府県記入用のリンクがわからない場合は事務局までご連絡を。

2022年度前期の活動報告記載、9月27日締切なので、登録をお願いしたい。

https://datastudio.google.com/u/0/reporting/7cc543c7-0b4c-4b45-ba6a-3f7846b8b563/page/p_vcg6xml1nc

③公式情報発信ガイドライン：工藤事務局長、伊丹アドバイザー

公式メーリングリスト (all@iyeo.or.jp IYEO会員が登録しているメールアドレスに届くようになっていた。) や、公式SNS (Twitter、Facebook) の発信規定がなかったため、今回新たに設けたもの。

伊丹アドバイザー：メーリスに何を流すかという手続きが複雑であり4役に承認されるまでに時間を有していたが、運用に関する規定はなく、名義規定を参照しながら承認していたが手続きが重く、メーリスにお知らせを流すのに四役の承認をとらないといけないため時間を要していた。

一方でFacebookなどは個人の判断で発信が可能。アンバランスを解消するようにした。

承認される基準は同じだが手続きを簡略化した。いくつか場合分けをして設定した。議論が必要なものは四役会や幹事会の承認が必要だが、発信内容が各都道府県IYEOのものであれば、ブロック幹事又は都道府県チームの幹事の判断で承認できるようにした。

内閣府の依頼に基づく申請は広報担当幹事の承認で可能に。

外部団体等の連携などこれらに該当しないものは幹事会で議論する。

その他、幹事が自ら担当のチーム活動を申請し、自ら承認することも可能に。

事業計画や予算書は原則必須としない。

【補足】：横倉広報担当幹事

公式Facebookのフォローがまだの方はぜひ登録お願いします。 <https://www.facebook.com/IYEOJapan>

【質問】：静岡県國分会長

日本青年国際交流機構の公式メール及び公式SNSによる発信に関する規程に関して、IYEOのメール、Facebook、Twitterに掲載する場合に関して規定されていますが、IYEOの公式ホームページに掲載する場合も適用されるか。これまでIYEOのホームページに掲載する時は、メールとは別に広報担当にコンタクトをとっていましたが、できれば一元化してほしい。フォームも添付ファイルが機能せず直接幹事に連絡を取る必要があるなど使い勝手が悪い。システムの簡素化を。

【回答】：工藤事務局長

ご指摘の通りホームページ掲載に関しては記載していなかった。

【回答】：伊丹アドバイザー

今回の規定はメーリングリストの手続きを簡略化する規定を作ることを最優先したため、HPに関しては敢えて記載していない。メーリングリストとSNSは速やかに発信することが大事だが、ホームページは残る情報のため、メーリングリストの規定とは異なるようになると思う。

【回答】：工藤事務局長

広報フォームの簡略化については、ホームページに掲載したい場合の申請フォームを設けていたが、この運用を見直しているためにフォームを閉鎖している。

【回答】：横倉広報担当幹事

ホームページ改修を考えているためその兼ね合いもあり、今回の規定に含めていなかった。フォームも予算書の提出が必要など難しい面があったので簡略化したいと思っていた。今後の幹事会で相談できればと思っている。

掲載してほしい情報があればメールでお知らせいただくと早めに対応できるかもしれない。

press@iyeo.or.jp

【質問】：静岡県國分会長

ホームページに開催案内を載せる際の手続きはどうなるか。

【回答】：横倉広報担当幹事

ブロックイベントに限るが、事務局から受けている仕事は申請ゼロ。

事務局を介さない申請に関しては、広報担当幹事に直接もしくはブロック幹事等を通して申請をいただくようになるが、私に申請してもらえば担当幹事に確認をしてアップする方法を7月から行っていた。正式な手続きではないので今後ルールが決まってくると思う。

【回答】：工藤事務局長、伊丹アドバイザー

今後の一元化については、戦略担当と広報担当で進めていきたい。

④IYEO入会制度について：工藤事務局長

(Webサイトについて説明)

IYEOについて問合せがあった場合は、いったんIYEOホームページから「入会する」のページに移動すると、入会の種類（正会員と一般会員）や費用の図もあるため、わかりやすく説明できると思う。団体会員に興味があると問合せがあった場合は、まずは事務局まで連絡いただきたい。

正会員と一般会員の違いを大きく分けると、入会費の他、大きくは特典（受けられる受益）と入会要件が異なる。内閣府事業既参加青年であれば、正会員。事業参加経験がない場合は一般会員となる。

入会率の低下に伴い、さまざまな団体があり、必ずしも入会をしてもらえる時代ではなくなったため、まずは2万円と金銭的負担を減らし、またまずは、入ってみて様子を見る等、一般会員を選べるようにした。

【3】社会貢献：伊勢幹事

①年間計画進捗共有

②社会貢献ひっぱり会議の開催報告

③未来創造計画2027の完成：伊勢幹事

今年度からスタートした社会貢献チームの活動。従来の事業軸、都道府県軸に当てはまらない、地域課題にアクションを起こす活動の受け皿が必要という背景から立ち上がった。山登りに例えると…山頂(共生社会の構築)を目指すための進め方(ルート)を考えながら実施している。

2021年から未来創造会議立ち上げ。若手を中心に未来のIYEOがどうあるべきか5か月間にわたって考え、5年後の未来創造計画をチームごとに作成、提案。今年度から社会貢献チームの位置づけで実施している。昨年度は5つのチームが立ち上がったが、ひとりひとりの「わくわく」がつながることで社会全体に連鎖していく形を理想として、対話を尊重しながら実施してきた。

社会貢献チームとしては定期的に運営MTGを開催し、共生社会への新たな価値創出をはじめ4分野で対話会をスタートした。

社会貢献チームとしては現在3つの活動を展開している。

未来創造計画作成に向け多くの方に興味を持っていただくために「ひっぱり会議」を開催した。(8月6日)

未来創造会議メンバーは事業に参加した方ばかりでなく、主旨に共感して加わっていただいた方もいる。共生社会の実現を目指してIYEOの未来を真剣に考える若手からの提案であり、私たち幹事会構成員がいかに受け止めて形にしていくかが大事だと思う。

積極的に動き出しているチームを一部紹介すると、キャリア教育分野で「ココキャリア」というチームが10月にイベントを企画している。広報誌チームではHumanoの刷新に向け今までとは違った魅力を持ったHumanoの発行に向けて準備を進めている。

対話会の一例として、未来創造会議2021で立ち上がった「個性がキラリ」というチームを中心に都道府県IYEO活動の新たな価値創出をテーマに8月に開催。

未来創造計画だが、外国につながるのある人をターゲットにした「医療×多文化共生プロジェクト」をはじめ3つのプロジェクトが立ち上がった。共生社会の実現に向けて14名が参加し、有志によるサポートチームで運営している。

具体的には事前学習フェーズとして2週間ごとにテーマを設け、ランダムチームで議論した。未来構想フェーズ以降はテーマごとに議論を深めてきた。思いのあるメンバー同士がオンラインを通して話し合うこと、行政の予算にしたら数千万円のコストがかかりそうな充実した内容を行っている。

(チームごとの紹介、※詳細は未来創造計画2027を参照。)

【補足】：伊丹アドバイザー

入会率の低下の話もあったが、事業終わりの若手の会員や、未来創造会議に参加したいから入会した方もいる。何かやりたいけれど、どうしたらいいかわからない人がある印象がある。ボランティアだと計画的にこうしたプロジェクトを進めることは大変だが、現状把握や計画策定など計画的に行い、その後に幹事としてIYEOを支える側になってくれていることはうれしい。未来創造計画をIYEO全体で実現していくことが大事なのでご協力をお願いします。

【補足】：有吉九州ブロック幹事

初めて運営メンバーで参加。私自身分析手法を学べたことは面白かったし、事業に参加したばかりの若手の考えを知ることができて良い機会だった。社会課題について行動したい若者がいることに気づき、運営側として何か力になりたいと思った。IYEOではいろいろな活躍をしている方がいるので、そういう方ともつなげていけたら。

【補足】：伊勢社会貢献担当幹事

来年度の新世界船に関してもSDGsの視点が加わるなど社会貢献の意識が求められるし、私たち一人一人が課題に向き合うことが大事だと思う。

【情報提供】：池田事務局次長

■ココキャリア Facebook

<https://www.facebook.com/profile.php?id=100084807481348>

自己理解ワークショップ

10月16日(日)16:00~18:00

申込フォーム

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdABJF10XJ97zON5ajbY79pqCbbb7ZioipW-929Dk0i0Fdaig/viewform>

【感想（チャット）】

三宅岡山事務局長：IYE0未来創造計画2027を拝見していると、参加者の皆さんの熱い思いを感じますね！

工藤事務局長：「1人1人の人生が豊かになって欲しい」私もとても大好きなメッセージです。

池田事務局次長：皆さんのおっしゃる通り、若者の計画をみんなでサポート実現させていきましょう！

大野事務局次長：今年度の未来創造会議参加者の印象としては、何か1つイベントやろう！といった単発発想から半年間で未来志向に移り変わり、具体的な組織運営スキル、プロジェクトスキル、ITスキル的一端も身に付き、5年後のビジョンから逆算して具体的で実行可能な未来創造計画を立案できる力が養われてきたなと思います。全国の皆さん、若者たちにIYE0の活動現場でぜひ活躍の機会を設けてあげてください。

【4】 財政：小柳幹事

①年間計画進捗共有（資料報告）

【5】 事業：小島副会長

①年間計画進捗共有

事業軸のつながりを作るための同窓会の実施と、定例化していくためのスキーム作りについて各担当幹事が中心になって企画を進めている。

スケジュールが決まっているものとしては世界船が10月29日、東ア船が12月17日に、いずれも対面で実施。日中は1月14日にハイブリッド開催、日韓は韓国側主催で2月に予定とのこと。育成、コアは実行委員募集開始、合同開催も検討だが高野幹事と連絡が取りづらくコア同窓会の進捗は確認できていない状況。今後育成担当の滝川幹事から高野幹事への連絡を試みつつ対応を検討したい。

・世界船：高橋幹事

10月29日 同窓会実施。本日から申し込み開始。今年度事前研修でも告知したので、これまでもの方も含めてご参加いただけたらと思っている。

<SWY Connect!>

2022/10/29(土) 13:30OPEN / 14:00START (予定)

14:00-18:00 アクティビティ&ワークショップ

18:30-20:30 懇親会

会場:アリスアクアガーデン品川

お申し込みはコチラ

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdjk-T0jj4rHMarr9aPRG1JQy94gn2tYDncfDQpt2>

Facebookページ：<https://www.facebook.com/swy.connect>

instagram <https://www.instagram.com/swy.connect/>

・東ア船：田島幹事

8月初旬に実行委員募集開始、9名で活動。12月17日に同窓会を都内で実施。実行委員募集は、Facebookグループで呼びかけて、シンガポールやフィリピンからもオンライン参加の申し出あり。

「Once a PY, Forever a PY」をキャッチフレーズに、もう一度コネクトしてみようと思えるような企画にしていきたい。

・日中：小田幹事

中国派遣団同窓会としては同窓会として長年活動しているのでいろいろ下地は整っている。明日10月2日から事前研修を開始するが、中国団OBOG 6名がファシリや運営委員として協力しており、事業参加経験者として参加青年に伴走している。

今年は日中国交正常化50周年の年で 様々な日中関係のイベントがあり、11月下旬ごろに日中友好協会と大使館と合同でイベントを実施予定。

同窓会は2年前の派遣団が幹事をするルーティンになっており、2019年度の派遣団が準備を行っている。1月14日にハイブリッド(都内)で実施予定。

【6】都道府県

①年間計画進捗共有：佐々木副会長

井戸端会議運営によるブロック間及び都道府県間の持続的な共創関係の構築に向け、9月22日に井戸端会議・都道府県役員研修実施。残念ながら参加者は少なかったがいろいろな話

ができた。年度内にもう一度井戸端会議を開催したい。前回の全国推進会議で静岡県國分会長から提案のあったアンケートを実施した。同じような悩みを抱えていることがわかり、IYEOとしてどのようにフォローしていくか、ざっくばらんに打ち明けたり、共有したりできたらと思っている。

会員のアクティブ率を高めるための仕組みの整備については、戦略担当と協力し、活動組織と会員のマッチング支援やオンボーディングを開始し、都道府県活動の仲間を増やしていけたらと考えている。

②全国大会やブロックイベントの在り方の再定義の着手

今年度から2部制になり、課題やメリットなど浮かんできたところもあると思う。今後ブロックイベントのあり方を考える会をスタートしたい。

各ブロックイベントの説明

- ・北信越ブロックイベント（富山県） 飯田会長
10月2日開催(ハイブリッド)
- ・北海道・東北ブロックイベント（北海道） 宇多副会長
11月5日・6日(ハイブリッド)
- ・関東ブロックイベント（栃木県） 平山副会長
11月26日開催(ハイブリッド)

【補足（チャット）】

横倉広報担当幹事：チラシにあしらわれているイラストは宇多実行委員会の手書きです♪めっちゃ可愛いのでじっくりご覧ください

小田中国担当幹事：最新情報は北海道IYEOFacebookページをご覧ください！

【北海道IYE0のFacebookページはこちら】

<https://www.facebook.com/hokkaidoieo>

本田副会長：宇多実行委員長を中心に、地方色豊かで、学びの多い盛りだくさんなプログラムです。ぜひ皆さん「あつま」りましょう！

フライト予約もあるのでピンときた方は、日程を抑えておいてぜひ来週申込み開始をお見逃しなく！

厚真町はとても素敵な場所で、実行委員メンバーも一団となって頑張っています。

(先日事前調査へ行った感想も込めて。)

本田副会長：栃木県は、栃木県国際交流協会も共催でのハイブリッド開催予定です。いろんな団体の連携で実施されるため、楽しみです！

今年のブロックイベントは、建付けがかわってアップデートされたことが、内容から伺えます。皆さんぜひご都合調整して今後のブロックイベントやGYSLに参加しましょう。

【質問】：伊勢社会貢献担当幹事

北信越ブロックイベント、お疲れ様です。明日は終日仕事なので参加できないが、アーカイブ配信はあるか。(内容はすごく気になる)

【回答】：日南田北信越ブロック幹事

今のところアーカイブ配信は予定していないが、会長に確認する。

③第1回 Glocal Youth Leaders Summitの案内について：鹿児島県土井監査

12月3日(オンライン)にて開催。対象者は中・高・大学生をメインターゲット。IYE0の皆さんにも参加いただきたいが、若い世代を誘って参加してほしい。実行委員28名で準備中。

④役員研修報告および都道府県運営マニュアルについて：樋口都道府県担当幹事

都道府県運営マニュアルを作成し、9月22日の役員研修で共有しながら説明した。これまで使っていた事務局の手引きについては、今はお渡ししていないので、茨城県前会長、現関東ブロック幹事の岸田さんが作った引き継ぎマニュアルをブロック幹事と一緒に改正して今回のマニュアルを作成した。

(内容の紹介)

役員研修に出席いただけなかった方も多いため、年度中に説明や質問を受ける機会を作りたいと思う。

都道府県ごとに状況も違うのでマニュアルをカスタマイズして活用してもらいたい。

システムを一度で理解するのは大変なので、マニュアルを見ながら試してもらいたい。近々よろずWebにも掲載していただく予定なのでよろずWebを確認いただきたい。

役員研修ご参加いただけなかった方は、次回ぜひご参加いただきたい。

【補足(チャット)】：工藤事務局長

IYE0 よろずWeb

<https://sites.google.com/ieyo.or.jp/ieyo/>

よろずWebには、過去のブロックイベント(ブロック大会)の資料アーカイブや、事業回数・年度早見表↓などを入れています。

https://www.ieyo.or.jp/cp-bin/wordpress/wp-content/uploads/2020/03/hayami_2020.3.5.pdf

【感想(チャット)】：福島山形県会長

都道府県運営マニュアル とても勉強になります！ ありがとうございます！

【質問】：白木愛知県会長

初歩的な質問をさせていただきます。よろずWebは役員のみ公開可能という認識でよろしいので

しょうか。会員皆さんが見てもよいものなのですか。

【回答】：工藤事務局長
都道府県会長以外もぜひご活用ください。

⑤各県IYE0の連絡方法と会費に関するアンケート：樋口都道府県担当幹事

アンケート結果の共有、30都道府県から回答。静岡県國分会長から各都道府県の状況を知りたいとのことで前回の全国推進会議で提案があり、都道府県チームでアンケートを作成して回答をいただいた。

1. 会員への連絡方法については半分くらいがメールと郵送、それ以外はラインやメッセージなどのSNSを使っているところが半分くらい。SNSを使った連絡がだんだん増えてきているのではと思う。

2. 名簿について、事務局でメールアドレスの整理を行っていただいているが、まだ3割くらい独自の名簿を活用しているという結果が出た。回答の中で気になる場所として、「事務局が管理する名簿へのアクセスがわからない」、という回答が2件あった。今日の会議で手がかりを得た県があると思う。わからないことは直接事務局に問い合わせさせていただきたい。

3. 年会費について、6割が徴収。会費は年間2～3000円が多数。終身会費という都道府県もある。納入用紙の同封は半数程度。納入率は10～20%が一番多い。会費納入率向上についてはマニュアルにも記載しているのでご確認を。

4. 総会開催について、30件のうち9割強が開催。方法はオンラインが半分、ハイブリッドが半分、対面が少し増えて2割くらい。6割くらいが5～10人の参加。新型コロナウイルス感染症が原因で開催していない都道府県もある。

5. 困っていること、（活動メンバーが少ない、財政問題、その他について紹介）

提案として各都道府県が活性化のためにどのような取り組みをしているか知りたい、全国推進会議構成員でTeamsを導入してはという意見もあった。

静岡県國分会長より：アンケートのご協力ありがとうございました。アンケートはあくまで現状把握をするものでこの結果から何かをするわけではない。このデータを各都道府県役員の皆さんに見てもらい、話し合う際の参考資料にしてもらいたいと思っている。「困っていること」は幹事会との情報共有をするために付け加えた質問だが、共通の悩みを抱えているということがわかるので、話し合いの材料にさせていただけたら。

【補足】：工藤事務局長
運営マニュアルには、会費納付率が大幅にUPした、広島県IYE0の事例が載っている。
※広島の実績：封筒を透明にして中身が見えるようにする。など、納入率3割アップした。

【質問】：大野事務局次長
このアンケート結果を受けて、誰かが何かをすることになっていましたか。活かし方は会議出席者にお任せか。

【回答】：樋口都道府県担当幹事
都道府県チームで確認して、改善できるところは事務局とも対応していきたい。

【7】 広報：横倉広報担当幹事

- ① 年間計画進捗共有
- ② ブランディングプロジェクト
- ③ HUMANO発行について
- ④ 各種掲載報告
(動画形式での報告)

広報チームは4つのフェーズに分けて活動。現在は基盤構築フェーズと量強化フェーズを同時進行中。IYE0をわかりやすく表現したいと考え、日々関わっている。9月末現在でIYE0組

織の価値創造のためにブランディングプロジェクトで未来の社会情勢を想像し、IYE0のあるべき姿を模索中である。未来創造会議メンバーとともに世間のニーズに合った情報発信を秋から行う準備をしている。

公式Facebookで多角的に発信し、昨年よりフォロワーが200名増加した。お問い合わせ・要望はpress@iyeo.or.jpまで。

ブランディングプロジェクトについて、7月の全国推進会議を経て8月から募集開始し、26名のメンバーで活動中。Facebookグループやオンラインホワイトボード「Miro」を活用。参加していない人にも雰囲気は伝わるように定例会の様子を幹事会TeamsやFacebookで発信している。

立ち上げ後の動きとして、8月にキックオフミーティングを実施。9月から「環境を見つめる」としてマクロ環境分析を行った。10月はクロスSWOT分析を行い、11月はブランドミッション・バリューを作るような活動を行い、検討したブランド戦略を12月の全国推進会議で提案できればと考えている。1月からはブランド戦略に基づき、ホームページ改修に着手したい。ブランディングプロジェクトで活用しているMiroを紹介。IYE0について考えたり、グループへの期待について議論したりした。9月にはペスト分析を行い、2030年の未来におけるIYE0の果たす役割について議論した。

広報誌HUMANOについて、ブロックイベントをはじめ、人にフォーカスした誌面作りを行った。10月中旬公開に向けて鋭意作成中。楽しみにお待ちしております。

【意見】：古家神奈川県会長ほか
動画に関する称賛の意見多数。

【補足（チャット）】：横倉広報担当幹事
ブランディングプロジェクトのメンバー構成が偶然ながらIYE0全体の中での割合に近いモノになったのではないかと思います自己満足です。26名の皆さんと一緒に12月まで走り抜けたいです。

【意見（チャット）】：大野事務局次長
自ら組織ビジョンを打ち出し、その実現に必要な人を集め、チームとしてまとめ上げ、ビジョン実現まで全体をリードする。抜群のリーダーシップを発揮していますね。自分で考え自分で動く姿勢は見習いたいと思います。

横倉幹事：未来創造会議卒業生です！！

【補足（チャット）】
Miro無料版なので皆さんに編集は頂けないのですが、閲覧は可能ですのでこちらのURLからご覧ください。

https://miro.com/app/board/uXjVPdx3pdo=?share_link_id=984932011494

【お礼（チャット）】：横倉広報担当幹事
HUMANO 特集記事掲載にあたり、都道府県幹事の皆様、取次ありがとうございました！

<インタビュー協力感謝>

四国ブロックイベント 芝会長、菊間さん、澤田さん

<インタビュー協力感謝>

中国ブロックイベント 濱岡さん親子・三宅実行委員長

<インタビュー協力感謝>

北海道・東北ブロックイベント 宇多実行委員長

<インタビュー協力感謝>

関東ブロックイベント 池澤真帆実行委員長

<インタビュー協力感謝>

九州ブロックイベント 園実行委員長、春田会長

【依頼（チャット）】：横倉広報担当幹事
HUMANO紙面企画の1つとして、広報誌を通じてもっと会員の皆さんと交流したい！！という
想いがあり、皆さんからのお便りを大募集します。

《フォームへの投稿・締め切り10月2日 23:59》
投稿フォーム👉<https://forms.gle/PwS9RRoyDx9d6w7MA>

10月号のテーマは「ワクワクしている（した）こと」です。
どんなお便りが届くのか、どんなHUMANOが出来上がるのかワクワクしています。
ぜひ皆さんの近況をお知らせくださいね。

【感想（チャット）】吉岡監査役
横倉さんの企画力、推進力、行動力、巻き込み力、デザイン力は半端ありません。驚きとと
もに、敬服致します。
ほかHUMANO発行を楽しみにしている意見多数。

【質問（チャット）】：静岡県國分会長
HUMANOは全会員に発送されるか。それともWEBか。素敵なHUMANOが出来上がりそうなので、
是非とも一人でも多くの方に読んでほしいですね。

【回答（チャット）】：横倉広報担当幹事
WEBです。紙が必要な場合は次年度ご相談させていただきます。
広報の予算というものが無く、予算組からです。
HUMANOも二段階人材育成の一環で愛知県にお住まいの芸大生にデザインをお願いしておりま
す。
これをきっかけに内閣府事業に興味持ってくれると良いなと思っております。

【8】 その他

・IYEOの入会率低下について考える：長末会長

※戦略チーム資料参照。会議中に何度も会員のエンゲージメントと入会について触れたが、
IYEOの入会率が低下している現状である。後継者が育たず、都道府県活動の低下を引き起こ
すことにつながるため、活動と並行して都道府県の皆さんにもできることはないか考えてい
ただきたい。

オンボーディングプロセスのなかで事業参加者の中でエンゲージメントを高める仕掛けを実
行してもらっているが、合格発表後のコンタクトがあるなしは印象度が違う。壮行会などし
っかりとフォローしていくことや、キャリアデザインセミナーなどいろいろな活動への誘導、
皆さん自身に何ができるかブレイクアウトでディスカッションしてもらいたい。

①自分たちの都道府県で何ができるか、②IYEO全体でやってほしいこと、についてグループ
ワークで議論。

【意見（チャット）】：大野事務局次長
会員登録状況については事業参加年度毎の住所登録数とメール登録数が参考になるかと思
います。

https://datastudio.google.com/u/0/reporting/7cc543c7-0b4c-4b45-ba6a-3f7846b8b563/page/p_whkpl7oxrc

【補足】：工藤事務局次長

▼記入用

https://docs.google.com/spreadsheets/d/1JcQCr3an4IM-GV81JNKnRQrbEb6UQ1an1Lo_nHNCsK0/edit?usp=sharing

- ・ブレイクアウト後、長末会長から振り返り。

V. 閉会挨拶

1 内閣府青年国際交流担当 : 田中駒子参事官

充実した報告と議論、皆様の事業と事後活動に対する熱い思いをうかがうことができた。ブレイクアウトでも傍聴させていただいたが、現場でのリアルな状況をお聞かせいただき、自分事として受け止めた。IYEOとのつながりをより充実させて、後の世代にも引き継いでいかないといけないと感じている。昨年10月に着任して1年になるが、今年度はようやく対面事業も動き出した。今年度はハイブリッドの2事業に加え、東ア船でもオンラインで地方プログラムを予定している。リアルな交流をどんどん展開することで新しい会員獲得、社会貢献活動の強化につながる好循環を作っていきたい。引き続き今後も皆様とコミュニケーションを図りながら充実した事業になるようつとめたい。

次の代表者会議は来年2月を予定している。次の会議では対面での開催を予定したいと思っている。皆様と直接お会いできることを楽しみにしている。

2 日本青年国際交流機構 : 長末会長

会長になる際に「楽しく、外へ、未来へ」というスローガンを掲げたが、今日いろいろと新しいことが動いて、外に向けて情報発信などが動いていることが感じていただけたと思う。コロナ禍でもあったが、内閣府とパートナーとして一緒に事業を作っていく感覚を得ている。都道府県の皆さんが抱えていることが内閣府の皆さんにも伝わったと思うし、幹事会だけでなく都道府県の皆さんと両輪でやっていきたい。今日出たことを自分事として捉え、楽しく外へ未来へバトンをつなげていけるような活動をしていきたいと思う。

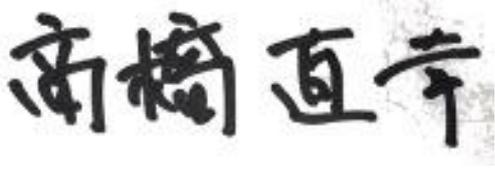
3 一般財団法人 青少年国際交流推進センター : 坂田副理事長

皆さんと一緒にいろんな意見を交わしながら組織の発展をしていくことが大事だと思っている。地域の活動を一生懸命やっていただきながら国際交流活動をやっていくことが大事だと思う。コミュニケーションを大事にしていくことが一番大事だと思う。

次回も皆さんの意見をお聞きして組織の発展のために設定していければと思っている。事業の継続のために皆さんに尽力していただくことを期待している。

以上

日本青年国際交流機構第80回全国推進会議

<p>議長</p> <p>日本青年国際交流機構 幹事（都道府県担当）</p> <p>樋口 敦子</p>	
<p>議長</p> <p>千葉県青年国際交流機構</p> <p>井上 翔太</p>	
<p>議事録署名人</p> <p>日本青年国際交流機構 北海道・東北ブロック幹事</p> <p>高橋 直幸</p>	
<p>議事録署名人</p> <p>熊本県青年国際交流機構</p> <p>浜元里菜子</p>	